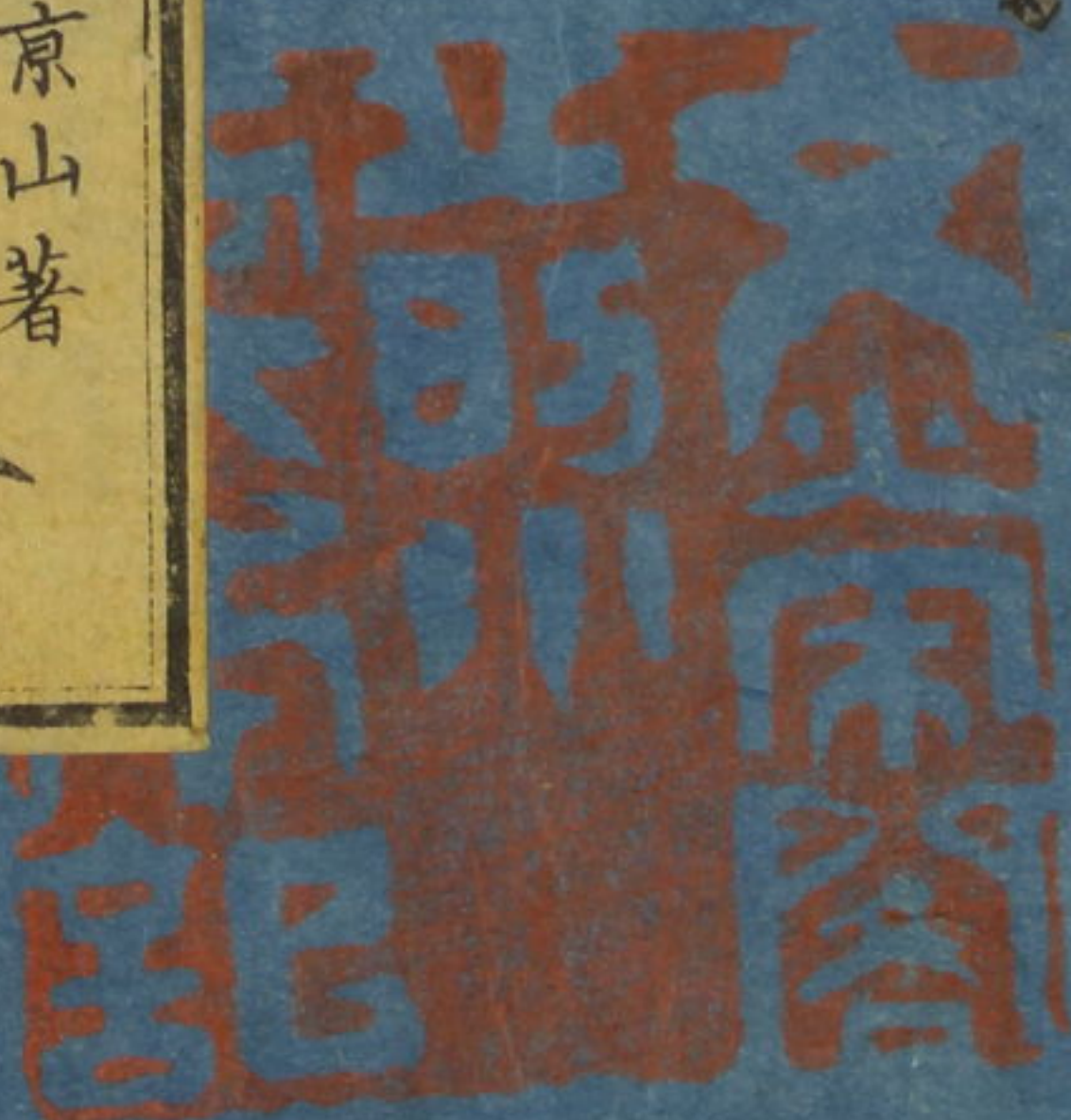


教草女房形氣

山東京山著

卷

廿乙



~ 13  
35.80  
21



門 へ 13  
 號 3580  
 卷 20 21

文 榮 堂 發 兌 房 書 目

考槃餘事

明屠小水著  
 東漢源謙校

白紙摺明朝綴  
 帙入全部四冊

題畫詩選

岡崎廬門著

全仕立全三冊

書畫皆宜

笑疑氏撰輯

白紙摺明朝綴  
 帙入全部三冊

題畫詩刪

森川竹憲著

全仕立全二冊

書舖

長華心齋鐵懸橋比第五街

前川舟七郎

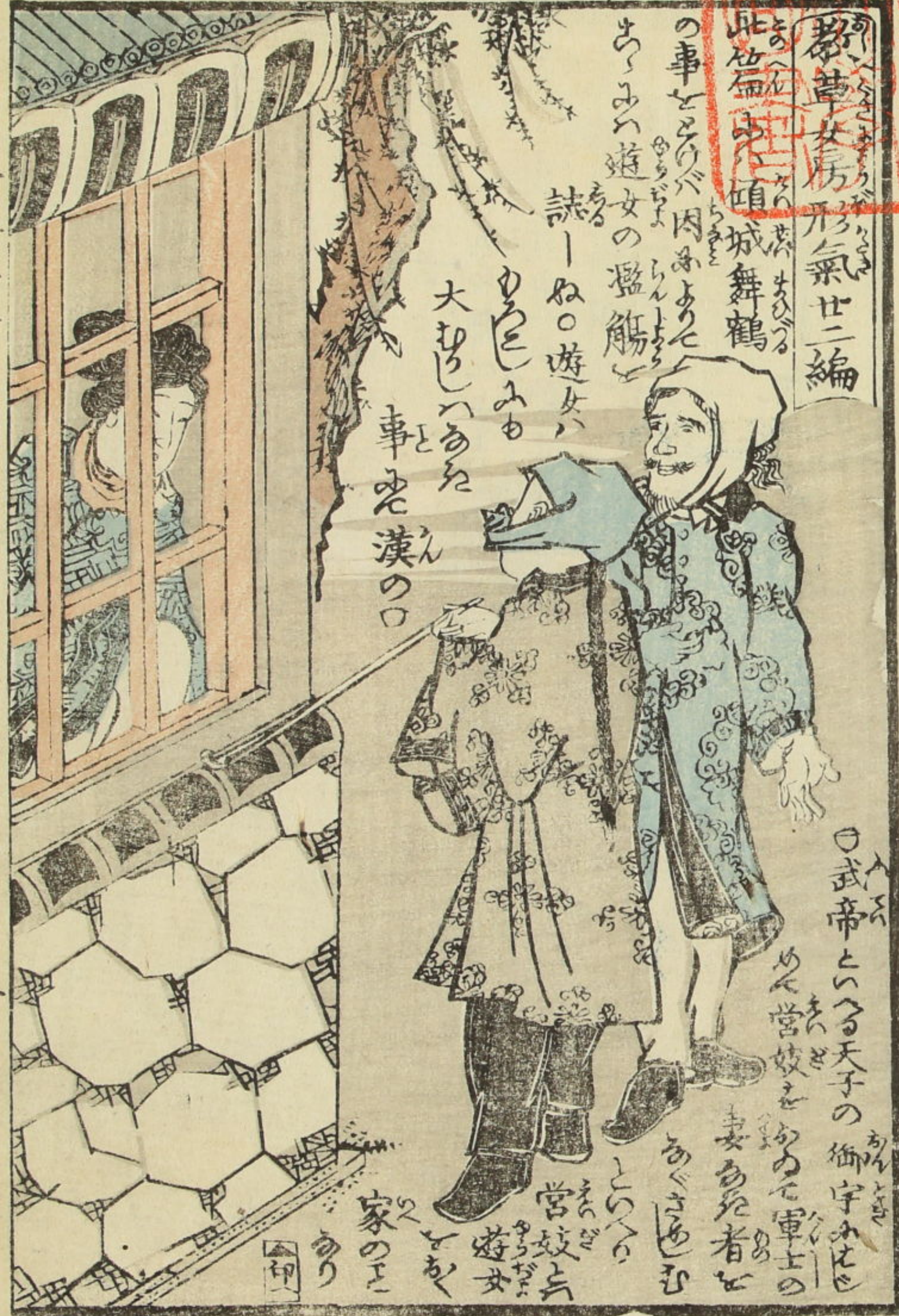
文榮堂

早稲田 大學 前川舟七郎 35.1.22 蔵

四十六



藝草女房形氣世二編  
 此は益々頭城舞鶴



の事とてり内あありと  
 あり遊女の鑑鏡  
 誌一ぬの遊女の  
 大むしへある  
 事と漢の口

武帝といふ天子の御守みは  
 めて宮妓をわめて軍士の  
 妻ある者  
 とのり  
 宮妓と  
 遊女  
 とあり  
 家の正  
 あり

白拍子の始ハ兼好法師の徒然草の  
 類クハ今ハ藝子の今ハ入藝子の  
 白拍子の始ハ兼好法師の徒然草の  
 類クハ今ハ藝子の今ハ入藝子の  
 白拍子の始ハ兼好法師の徒然草の  
 類クハ今ハ藝子の今ハ入藝子の

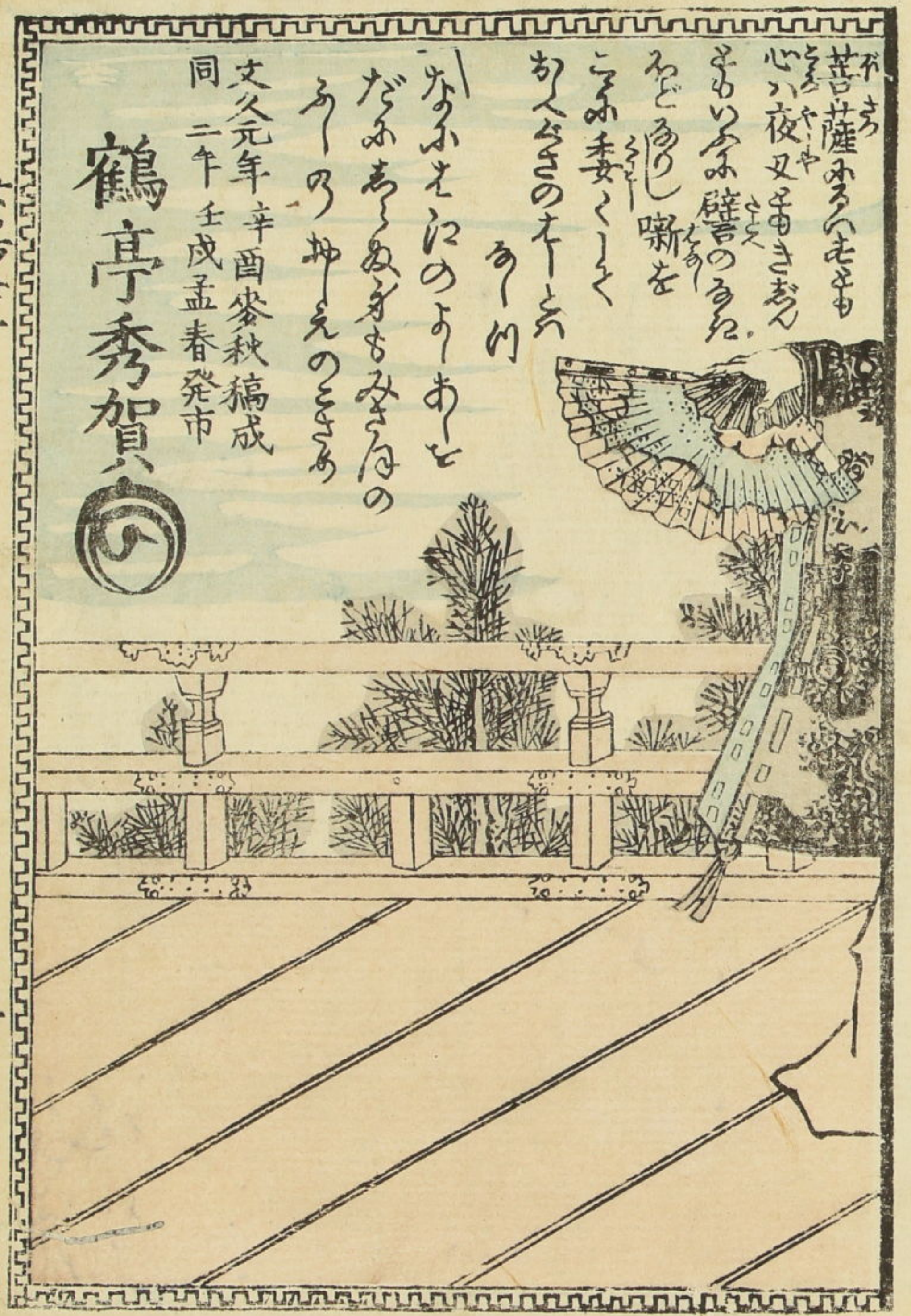
白拍子の始ハ兼好法師の徒然草の類クハ今ハ藝子の今ハ入藝子の  
 白拍子の始ハ兼好法師の徒然草の類クハ今ハ藝子の今ハ入藝子の  
 白拍子の始ハ兼好法師の徒然草の類クハ今ハ藝子の今ハ入藝子の  
 白拍子の始ハ兼好法師の徒然草の類クハ今ハ藝子の今ハ入藝子の

遊女と云ふは是れ白拍子の始ハ兼好法師の徒然草の類クハ今ハ藝子の今ハ入藝子の  
 遊女と云ふは是れ白拍子の始ハ兼好法師の徒然草の類クハ今ハ藝子の今ハ入藝子の  
 遊女と云ふは是れ白拍子の始ハ兼好法師の徒然草の類クハ今ハ藝子の今ハ入藝子の  
 遊女と云ふは是れ白拍子の始ハ兼好法師の徒然草の類クハ今ハ藝子の今ハ入藝子の

遊女と云ふは是れ白拍子の始ハ兼好法師の徒然草の類クハ今ハ藝子の今ハ入藝子の  
 遊女と云ふは是れ白拍子の始ハ兼好法師の徒然草の類クハ今ハ藝子の今ハ入藝子の  
 遊女と云ふは是れ白拍子の始ハ兼好法師の徒然草の類クハ今ハ藝子の今ハ入藝子の  
 遊女と云ふは是れ白拍子の始ハ兼好法師の徒然草の類クハ今ハ藝子の今ハ入藝子の



大磯の  
 虎の類を遊女白拍子あじうど  
 良人のためあふ身命とよまれ節義と  
 まろませと其他あも挙て  
 かえりじ然も今う遊女と  
 行ひきらふ雲泥の  
 なかみ  
 ありて  
 就中  
 この物語の  
 るも  
 の  
 鶴が  
 類ハ



不  
 苦薩あふんまも  
 心い夜又あふまきあふ  
 ぞのいふ壁のまね  
 をあふの嘶を  
 こふ妻くく  
 かんまの太く  
 あふ  
 かなふを江のよりあふ  
 だふあふあふもあふの  
 あふのあふのあふ

文久元年 辛酉 麥秋 稿成  
 同 二年 壬戌 孟春 発市  
**鶴亭秀賀**

女房

教草女房形氣三三編

初段のまへよふ名由

たうきうしやのむまき  
るく四弟いおゆれと  
りつたまむらへそ  
よりいあまーまぞう  
ありたるふ又ゆや  
うさかまのあま  
かかひづふうらうと  
ぬじてうま  
つるふぞ  
るをまあるる一

このやの四郎

① たいさうそめ  
てふそのふいさる  
まへ  
まへ  
あるひまひあて  
つる  
ちんきうのまへ  
まへまの②



① たいさうそめ  
てふそのふいさる  
まへ  
まへ  
あるひまひあて  
つる  
ちんきうのまへ  
まへまの②



① たいさうそめ  
てふそのふいさる  
まへ  
まへ  
あるひまひあて  
つる  
ちんきうのまへ  
まへまの②

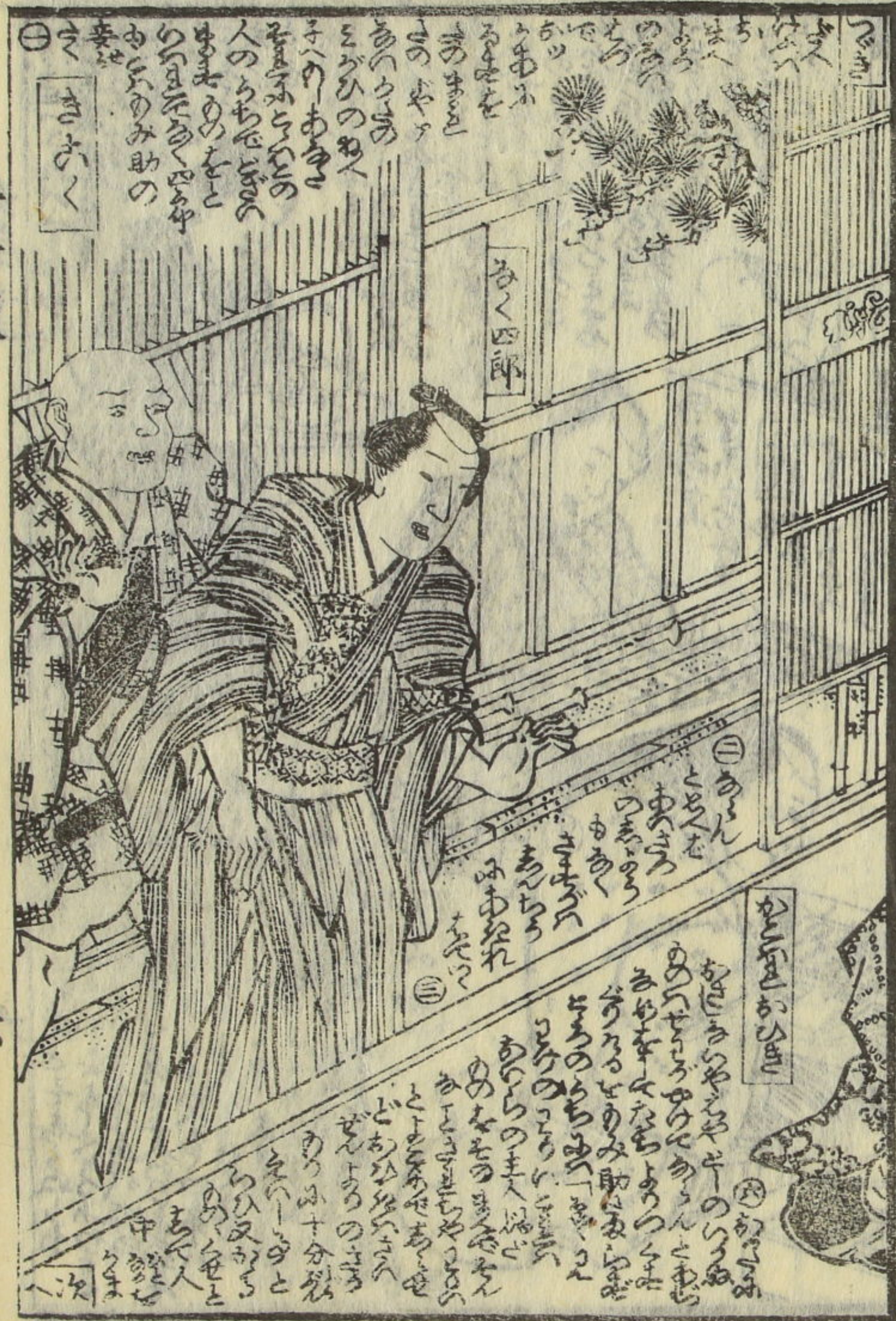
梅垣まきまの花見  
梅垣まきまの花見  
梅垣まきまの花見  
梅垣まきまの花見

なくとおちハ  
ちんきうのまへ  
まへまの②

女房世

19







① 助のたてひめをたつて...  
 助のたてひめをたつて...  
 助のたてひめをたつて...  
 助のたてひめをたつて...

② 助のたてひめをたつて...  
 助のたてひめをたつて...  
 助のたてひめをたつて...  
 助のたてひめをたつて...



③ 助のたてひめをたつて...  
 助のたてひめをたつて...  
 助のたてひめをたつて...  
 助のたてひめをたつて...

④ 助のたてひめをたつて...  
 助のたてひめをたつて...  
 助のたてひめをたつて...  
 助のたてひめをたつて...

⑤ 助のたてひめをたつて...  
 助のたてひめをたつて...  
 助のたてひめをたつて...  
 助のたてひめをたつて...





まぐ四郎

のまはりのみ  
あはれとあひ  
けるがそまふ  
のみ助

あはれとあひ  
けるがそまふ  
のみ助

かまのあめ  
まあま  
四ッあいら  
あはれとあひ  
けるがそまふ  
のみ助



三段

かまのあめ  
まあま  
四ッあいら  
あはれとあひ  
けるがそまふ  
のみ助

のみ助

のまはりのみ  
あはれとあひ  
けるがそまふ  
のみ助

あはれとあひ  
けるがそまふ  
のみ助

あはれとあひ  
けるがそまふ  
のみ助





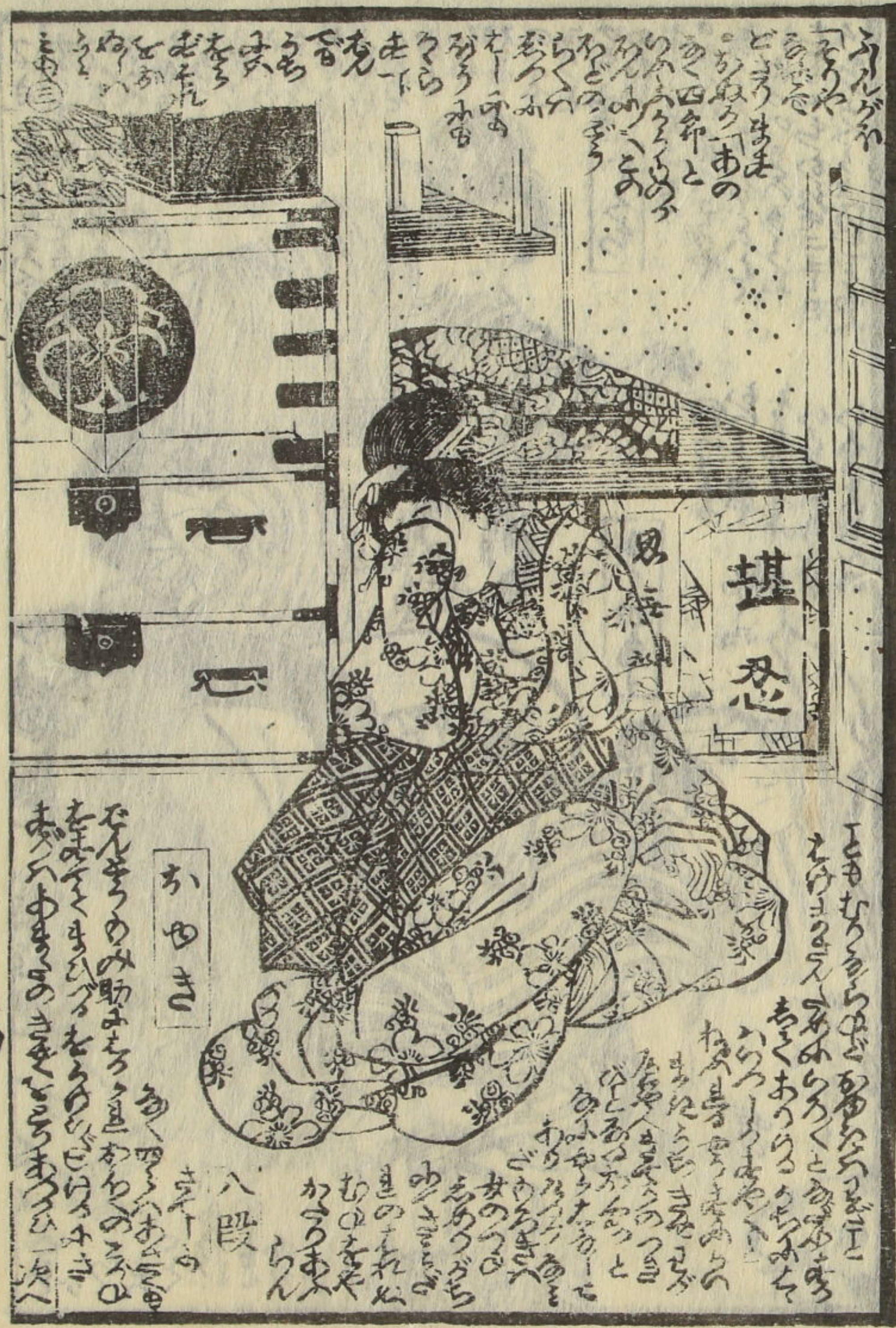
如月廿三日

あみ











ついでに、この庭の、  
あつた、その、  
の、あつた、  
の、あつた、  
の、あつた、

かむち

あつた、その、  
の、あつた、  
の、あつた、  
の、あつた、

あつた

あつた、その、  
の、あつた、  
の、あつた、  
の、あつた、

あつた、その、  
の、あつた、  
の、あつた、  
の、あつた、



あつた

あつた、その、  
の、あつた、  
の、あつた、  
の、あつた、

あつた、その、  
の、あつた、  
の、あつた、  
の、あつた、

あつた、その、  
の、あつた、  
の、あつた、  
の、あつた、





あゆむをよると  
 むくひとまくりあは  
 さへ多みたるいあは  
 むまの工事もあ  
 九段 つきぎたさ  
 かんちとあつさ  
 とまのあひあひ  
 かんちとあつさ  
 かんちとあつさ  
 かんちとあつさ

あゆむ  
 むくひ  
 さへ多みたる  
 むまの工事も  
 九段 つきぎたさ  
 かんちとあつさ  
 とまのあひあひ  
 かんちとあつさ  
 かんちとあつさ  
 かんちとあつさ



あゆむをよると  
 むくひとまくりあは  
 さへ多みたるいあは  
 むまの工事もあ  
 九段 つきぎたさ  
 かんちとあつさ  
 とまのあひあひ  
 かんちとあつさ  
 かんちとあつさ  
 かんちとあつさ

あゆむ

あゆむをよると  
 むくひとまくりあは  
 さへ多みたるいあは  
 むまの工事もあ  
 九段 つきぎたさ  
 かんちとあつさ  
 とまのあひあひ  
 かんちとあつさ  
 かんちとあつさ  
 かんちとあつさ





おんあ

おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ

おんあ

おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ

おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ

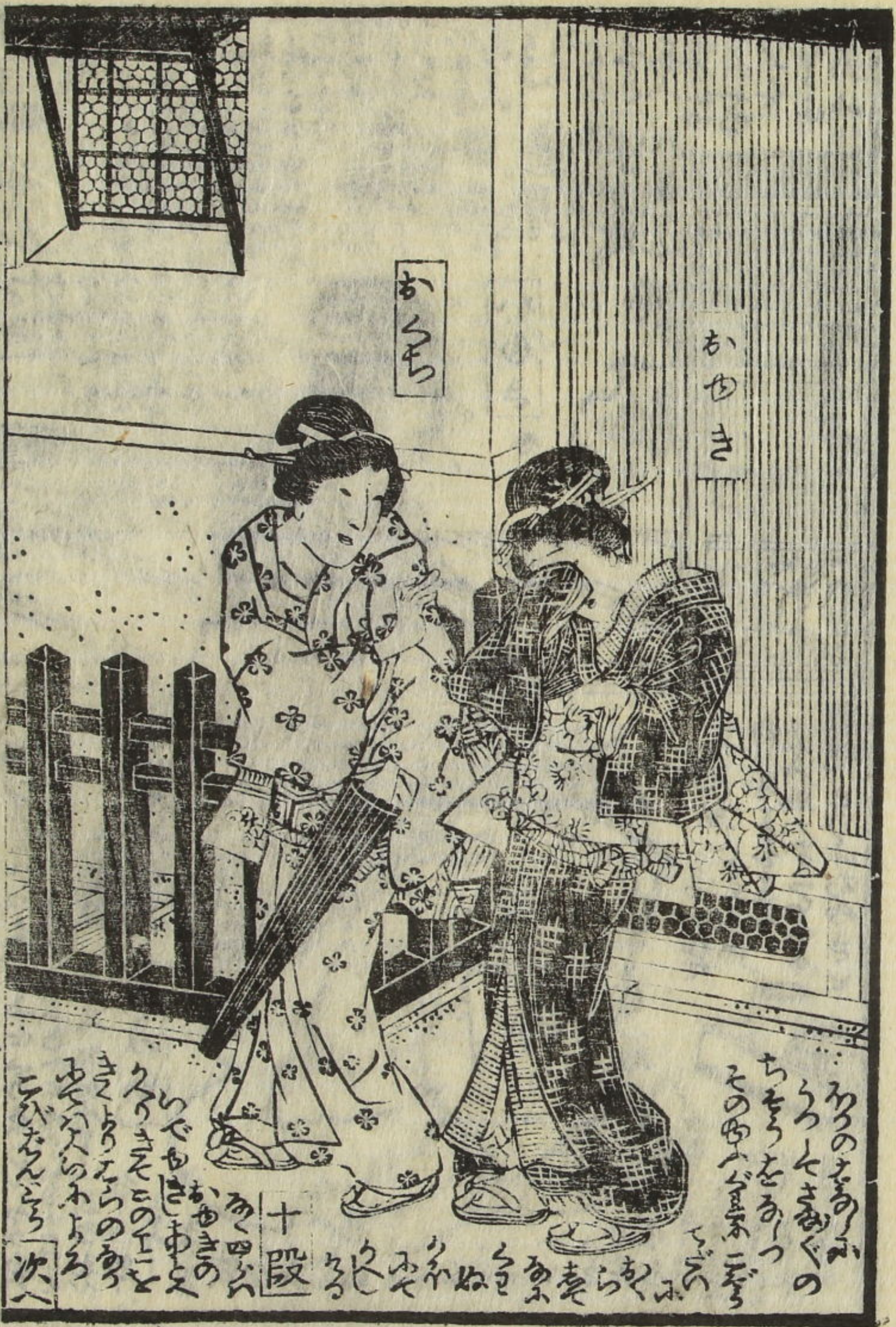


おんあ

おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ

おんあ

おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ  
おんあ



女房十二

12



女房十二

12





重刊水鏡  
精忠全  
時以源類

精忠全